

令和4事業年度の主なトピック

《若手研究者の支援の充実について》

1. 研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業

参考URL：<https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd-koyou/>

2. 科研費「国際先導研究」

参考URL：https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/05_sendou/index.html

3. 渡航先での著しい物価高の影響等に伴う特例措置

4. 女性研究者の出産に伴うキャリア継続支援事業

参考URL：<https://cheers.jsps.go.jp/support/>

5. 若手研究者支援メニューの一覧化

参考URL：

博士後期課程学生向け：https://www.jsps.go.jp/j-list/for_phd_student.html

若手研究者向け：https://www.jsps.go.jp/j-list/for_young_researchers.html

令和4年度事業報告書（抜粋）

令和4事業年度の主なトピック 《若手研究者の支援の充実について》

将来にわたり我が国及び人類社会の発展をもたらすためには、科学技術・イノベーションの創出が必要であり、その源泉となるのが個々の研究者の内在的動機に基づき行われる学術研究の卓越性・多様性です。また、我が国の学術研究の水準を高め、新たな価値を創造し続けていくためには、それを担う多様な人材の育成・確保が極めて重要になります。

しかし、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は研究現場にもその影響を及ぼし、研究体制の縮小を余儀なくされたことや海外への渡航が困難となったことで、対面形式による研究者間の情報交換や共同研究の遂行が中断され、若手研究者が国際的感性を養う機会が損なわれたとの指摘もなされています。

独立行政法人日本学術振興会（以下「学振」という。）においては、これまで研究の助成や研究者への経済的支援、研さん機会の提供等を通じて、若手研究者が研究に専念できる環境の整備に取り組んできました。令和4（2022）年度においては、若手研究者が安心してキャリアパスの展望を描きつつ、国や分野にとらわれず「知」の開拓に果敢に挑戦することができるよう、研究現場の声に耳を傾けながら、若手研究者支援の取組をさらに強化しました。今後も引き続き、各事業における若手研究者への積極的な支援を推進するとともに、更なる制度の改善に取り組んでまいります。

1. 研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業（⇒9. 業務の適正な評価の前提情報）

学振では、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者を育成するため、優れた若手研究者に、その研究生生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、支援を行う「特別研究員事業」を実施しています。

従来は雇用関係がなく不安定な身分であった特別研究員－PD, RPD, CPD（以下「PD等」という。）について、大学等の受入研究機関においてPD等の雇用を可能にするるとともに、当該研究機関の責任においてPD等の育成と研究環境の向上を図るため、「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」を令和5（2023）年度から実施することを決定し、研究機関からの登録申請の受付を開始しました。

本事業では、特別研究員制度の趣旨に賛同しPD等を雇用して積極的に優秀な若手研究者の確保・育成に取り組むことを希望する研究機関を対象に公募を行い、所定の要件を満たす機関を「特別研究員－PD等の雇用制度導入機関」に登録し、雇用するPD等の人数に応じ、雇用に係る経費を当該機関に支援します。加えて、雇用制度導入機関において、研究インテグリティの確保や安全保障貿易管理、不正行為防止に関する研究機関の適切な管理下で、PD等の研究遂行上不可欠な要素である「主体的に研究に専念できる」条件を確保するための支援経費を追加で交付するため、科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）において「特別研究員奨励費（学術条件整備）」も新設しました。これらの支援により、研究機関と連携しつつ優秀な若手研究者の効果的な育成と更なる研究環境の向上を積極的に推進していきます。

詳細については、以下のウェブページをご覧ください。

<https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd-koyou/>

2. 科研費「国際先導研究」（⇒9. 業務の適正な評価の前提情報）

学振では、人文学、社会科学から自然科学までの全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究に対して助成を行う「科研費」事業を文部科学省と協同して実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により停滞した国際的な研究交流の再接続を支援するため、高い研究実績と国際ネットワークを有する国内のトップレベルの研究者が率いる研究チームと、海外のトップレベルの研究チームとの国際共同研究を支援する科研費「国際先導研究」が令和3（2021）年度の補正予算において創設されました。

本研究種目では、研究代表者、研究分担者の3倍程度の人数のポストドクター、大学院生（博士課程）が研究協力者として参画することを応募要件としており、これにより将来、国際的な研究者コミュニティの中核を担う人材の育成を強力に推進します。

加えて、応募された研究費とは別に、若手研究者が国際共同研究に参加しやすい研究環境を確保するための経費を措置するとともに、研究期間内にテニユア職の研究者（テニユアトラックを含む。）として研究機関に採用された研究分担者（ポストドクター）、研究協力者（ポストドクター、大学院生）に対するスタートアップ経費を申請に応じて追加で措置することとしています。

令和4（2022）年度には、応募のあった研究課題131件について審査を実施し、15件の研究課題を採択しました。

詳細については、以下のウェブページをご覧ください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/05_sendou/index.html

3. 渡航先での著しい物価高の影響等に伴う特例措置（⇒14. 内部統制の運用に関する情報）

令和4（2022）年度においては、欧米を中心に近年類を見ない急激な物価高が生じました。そのような中で、海外で研究活動を行う特別研究員、海外特別研究員及び若手研究者海外挑戦プログラム採用者に対して、令和4（2022）年度限りの特例措置として、渡航先での生計の維持や研究活動等に支障が生じていることに対する臨時的救済的一時金（臨時特別給付金）を支給し、研究の継続性を柔軟に高める支援を行いました。

4. 女性研究者の出産に伴うキャリア継続支援事業（⇒5. 法人の長の理念や運営上の方針・戦略等）

学術の振興を図るためには、年齢や性別、分野、機関にかかわらず、知を創造する研究者が、その能力を最大限に発揮できるよう、多様性を確保することが重要であり、学振ではこれまでも男女共同参画の観点から、若手研究者向けの支援事業の応募要件における年齢制限等において、ライフイベントの期間を配慮するなど、研究者のライフイベントとキャリア形成の両立の支援に取り組んできました。令和4（2022）年度には、研究現場からの要望も踏まえ、女性研究者が妊娠中及び出産後の健康を確保しつつ、安心してキャリアを継続できる環境の整備を目的として、「女性研究者の出産に伴うキャリア継続支援事業」を新たに開始しました。

本事業では、特別研究員または海外特別研究員に採用されている女性研究者に対して、出産を理由として採用を中断する期間のうち、産前6週間から産後8週間までの期間についてキャリア継続支援金の支援を行っています。

詳細については、以下のウェブページをご覧ください。

<https://cheers.jsps.go.jp/support/>

5. 若手研究者支援メニューの一覧化（⇒16. 参考情報）

博士後期課程学生や若手研究者向けの支援を充実させるため、国や他の資金配分機関（ファンディングエージェンシー）においても「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ（令和2年1月23日 総合科学技術・イノベーション会議決定）」等に基づき様々な取組が進められています。そのような状況を踏まえ、研究現場の若手人材が自ら応募できる事業の情報を得られやすくなるように、学振における「博士後期課程学生向けの支援事業一覧」及び「若手研究者向けの支援事業一覧」をそれぞれ作成し、学振のウェブサイト上で公開しました。また、事業一覧のページの中に、若手研究者向けの支援事業を掲載している他のファンディングエージェンシーのウェブページとの相互リンクを作成することで、他機関とも連携しつつ効果的な情報提供に取り組んでいます。

詳細については、以下のウェブページをご覧ください。

博士後期課程学生向け：https://www.jsps.go.jp/j-list/for_phd_student.html

若手研究者向け：https://www.jsps.go.jp/j-list/for_young_researchers.html